

群 教 七	F08 - 01
	平28.261集
	生徒指導

自己有用感を高め、 互いの絆を深めることができる生徒の育成

— 互いを認め合うグループワークや
ソーシャルスキルトレーニングの指導実践を通して —

特別研修員 阿佐美 勝

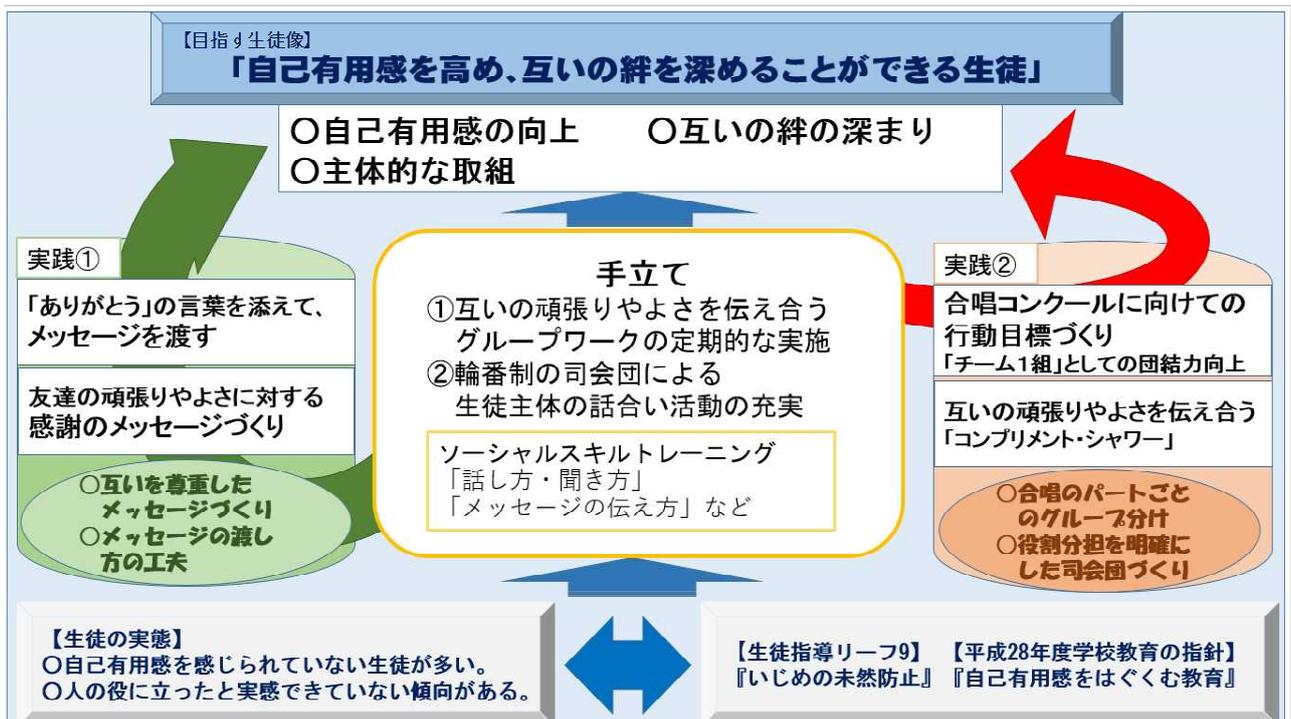
I 研究テーマ設定の理由

生徒指導リーフ9「いじめの未然防止Ⅱ」では、『授業や行事の中で全ての児童生徒が活躍できる場面をつくりだし、(“絆づくり”のための場づくり)、彼らの「自己有用感」が高まれば、いじめには向かわない』とされている。また、群馬県教育委員会発行の「平成28年度学校教育の指針」においても、「いじめの未然防止に向けた望ましい人間関係づくりを進める取組の充実」として、「自己有用感をはぐくむ教育活動の充実」が求められている。

2016年4月に勤務校において担任する学級の生徒を対象に実施したC&S 質問紙による調査では、「1年1組で良かった」という肯定的な声とともに、67%の生徒が学級に「何でも話せる雰囲気がある」、73%の生徒が「思いやりのある人が多い」と答えている。しかし、同じく2016年4月に実施した同じ学級の生徒対象の「ふだん思っていることアンケート」によると、「わたしは、クラスの人の役に立っている」と答えた生徒は22%、「わたしは、クラスの人から信頼されている」と答えた生徒は21%と少数であった(6頁図9)。さらに、「友だちをもっと作りたい」という声が複数あった。勤務校には、三つの小学校から生徒が入学する。そのため、生活環境が大きく変化することにより、生徒に悩みや不安をもたらすことが多い。それゆえ、「自己有用感を高め、互いの絆を深めること」は必要だと思われる。また、1年生の段階で豊かな人間関係を構築することは、その後の中学校生活の充実にもつながると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒の「自己有用感を高め、互いの絆を深める」ために、次の三つの活動を柱として実践した。

手立て1 互いの頑張りやよさを伝え合うグループワークの定期的な実施

手立て2 輪番制の司会団による生徒主体の話合い活動の充実

手立て3 生徒の実態に応じたソーシャルスキルトレーニングの実施

手立て1は、定期的に、互いの頑張りやよさを伝え合うグループワーク（コンプリメント・シヤワーや学級MVPなど）を実施することで、生徒の自己有用感を高めることを目指している（6頁図10・11）。中学1年の2学期は、高原学校・体育大会・合唱コンクールなど、生徒の活躍の場が多い。その中で、生徒同士が互いの頑張りやよさを目に見える形で言葉にして伝え合うことで、自分自身の役割の大きさに気付くことができる。

手立て2は、輪番制の司会団による話合い活動を定期的実施することで、学校生活において、生徒自身が様々な活動に主体的に取り組む契機を作り出すことを目指している。生徒自身が自分の学級を居場所と感じるからこそ、その空間を自分たちの力でより良くしようとする主体性が育まれる。学級会や話合い活動における司会団というリーダー的役割を多様な生徒が担うことで、そのような主体性を引き出したい。

手立て3は、生徒同士が学級の中で、特定のグループや男女の区別に関わりなく、幅広い人間関係を築くことを目指している。その多様な人間関係を土台として、互いの絆を深めることができるように、生徒の実態に応じて、適宜、ソーシャルスキルトレーニングを実施した（6頁表2・以下「SST」と記述）。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 互いの頑張りやよさを伝え合うグループワークを定期的実施したことにより、生徒の自己有用感および自己肯定感を向上させることができた。それは、自己有用感に関するアンケート結果における「わたしは、クラスの人の役に立っている」の質問に「あてはまる」と回答した生徒が、22%から32%に増加したことやC&S 質問紙による調査で、自己肯定感の数値が30以下の生徒7名のうち6名の自己肯定感が大きく向上したことから読み取ることができる。また、授業実践後の生徒の感想においても、「みんなにほめてもらえてうれしいし、勇気が出ました。これからもがんばりたいと思いました」を一例とする自己有用感の向上が感じられる言葉が複数見られた。
- 輪番制の司会団による話合い活動を定期的実施したことにより、学級会だけでなく、教科の授業での話合い活動でも、互いの意見を活発に伝え合う様子が見られた。また、授業実践②における生徒主体の学級会を実施した翌日からは、生徒の行動にも変化が見られた。「今回の学習で決まった目標を守って、今後生活していきたいと思いました」「まとめた意見をもとに、これからの練習をがんばりたい」と授業後振り返った言葉のように、生徒は、朝からの合唱練習や先輩との合同練習に主体的に取り組み、合唱コンクール本番では、最優秀賞を受賞する歌声を響かせていた。
- SST を実施したことで、困った生徒を積極的に助けるような互いを気遣った言動ができる生徒が増えた。それは、「話し方・聞き方」トレーニング後の振り返りの「聴くという字に「心」がある理由が分かった。喜びや嬉しさは、やはり「心」から生まれると思った」「人の話を聞くときは、目を見て、うなずきながら聞くと相手も良い気持ちになれると思った」などの言葉からも読み取れる。

2 課題

- 今回の授業実践だけでなく、日頃から、学年の中でも連携をさらに深め、共通実践を行っていくことで、生徒の自己有用感のさらなる向上を心掛ける。
- 生徒が活躍できる場をつくり、その活躍を振り返りながら、互いの頑張りやよさを伝え合う活動を継続的・計画的に取り組むことで、生徒の絆をさらに深めていきたいと思う。
- 生徒主体の学級会や話合い活動では、司会団の生徒への事前指導を計画的に実施するとともに、話合い活動を円滑に進めるために教員の言葉掛けを入念に準備して、授業を組み立てる必要がある。

実践例

1 議題名 「合唱コンクールに向けて団結するために」(第1学年・2学期)

2 本議題について

本議題は、合唱コンクールに向けて、クラスが一丸となって練習に取り組むことで、生徒一人一人の自己有用感を高め、互いの絆を深めることを目指した活動である。合唱コンクールに向けて2016年9月に実施したアンケート調査では、合唱が好きと答えた生徒が68%、嫌いだと答えた生徒が32%であった。合唱が好きな理由は、「みんなで歌うと楽しいから」という答えとともに、「仲間と団結できるから」など仲間との団結に期待する声も複数あった。合唱が嫌いな理由は、「歌うことが苦手で、好きではないから」といった歌への苦手意識を理由にする答えが多かった。そのため、互いの頑張りやよさを伝え合うことで、一人一人が自信を持って合唱に取り組める雰囲気を作り出すとともに、生徒主体の学級会を実施することで、生徒自身の主体性と団結力を高めることが本議題のねらいである。

以上のような考えから、本議題では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	合唱コンクールに向けて、互いの頑張りやよさを認め合うとともに、クラスの団結力を高めるために、行動目標を考える。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	他者に関心を持ち、互いに認め合おうとするともに、クラスが団結するための行動目標を考えようとしている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	合唱コンクールに向けて、自分たちの行動目標を考え、その目標を実践している。
	集団活動や生活につ いての知識・理解	生徒主体の学級会や話し合い活動を通して、互いの頑張りやよさに気付くとともに、クラスが団結することの大切さを理解している。
時間	主な内容	主な学習活動
事前	問題の発見	・合唱コンクールに向けて、学級目標と学級会の議題・提案理由を決める。
	題材の選定	・合唱曲の歌詞について、大切にしたい部分を事前に考える。
	問題の意識化	・司会団の役割分担とともに、司会進行や記録の練習をする。
本時	出し合い	・互いの頑張りやよさを合唱のパート別で伝え合う。
	比べ合い	・クラスが団結するために、パートごとの行動目標を考える。
	まとめる	・自分たちの行動目標を意識しながら、合唱曲を歌う。
事後	実践	・合唱コンクール後に、互いの頑張りやよさを全員と伝え合う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は校内合唱コンクールの約1週間前に予定された学級活動である。合唱コンクールは、学級全体が目標に向かって団結できる絶好の機会である。その取組の中で、生徒の「自己有用感を高め、互いの絆を深める」ことが本時のねらいである。「互いの絆を深める」ためには、生徒自身の主体性を高めることが不可欠と考え、主に二つの手立てを実践した。一つ目は、生徒自身が合唱に主体的に取り組もうとする意欲を高めるための手立てである。二つ目は、苦手意識を持つ生徒も含めて、自信を持って合唱に取り組む気持ちを引き出すための手立てである。

授業改善に向けた手立て

① 輪番制の司会団による生徒主体の話し合い活動の充実

- ・SST で得たコミュニケーション力を活用して、輪番制の司会団が話し合い活動を進行する。
- ・話し合い活動を円滑に進めるために、司会団の生徒が話し合いのルールや役割分担を伝える。
- ・ミニホワイトボードを活用し、話し合いの過程を可視化することで、話し合い活動の充実を図る。

② 互いを認め合うグループワークの充実

- ・互いの頑張りやよさを伝え合う活動を取り入れることにより、生徒の自己有用感を高める。
- ・互いの頑張りやよさを伝えやすくするため、合唱のパートを基本としたグループ編成にする。
- ・グループワークが円滑に進むよう、ICTを活用して資料を提示する。

4 授業の実際

合唱に関する事前アンケートを実施するとともに、合唱コンクールに向けての学級目標を前時に生徒主体の学級会で決めることから始め、生徒が意欲的に合唱に取り組むことを目指した。

本時では、まず、生徒が自信を持って合唱に取り組めるよう、互いの頑張りやよさを認め合うグループワークを行い、その後、合唱に対する主体的な行動を引き出すために、合唱コンクールに向けての各パートごとの具体的な行動目標を生徒の学級会運営により生徒自身が主体的に話し合った。そして、授業の最後に、行動目標を意識しながら合唱曲を全員で歌うことで、1週間後に実施された合唱コンクールに向けて、生徒の主体的な行動力を引き出せるよう心掛けた。

(1) 手立て1「輪番制の司会団による生徒主体の話合い活動の充実」

2学期当初、生徒へのアンケートをもとに、「司会役2名・黒板書記役2名・記録役」の5人の輪番制の司会団を結成したことから、学級会運営に対する生徒の主体性を引き出すことができた。1学期から定期的実施したSSTで鍛えた「話し方・聞き方」などのコミュニケーション力を活用して、本時でも生徒自身が学級会を進行する姿が見られた(図1)。



図1 自分たちで学級会を進行する司会団

また、司会団の生徒が図2及び6頁図12のような話合いのルールや図3のような役割分担を伝えたことで、話合い活動を円滑に進めることができた。それは、「話合いのめあてを自分たちの力で達成することができたか」という話合い活動の振り返りの問いに対し、69%の生徒が「そう思う」、28%の生徒が「やや思う」と答え、35名中34名が肯定的に回答した結果からも読み取ることができる。

【約束】

- ①人の話を聞くときは、しっかりと聞くこと。
- ②相手が嫌がるような発言はしないこと。

【意見の伝え方】

- 相手に聞こえる声で、はっきりと意見を伝えましょう。

【意見のまとめ方】

- 互いの意見をまとめ、「何をいつどのように」取り組むのか、分かるような具体的な意見をつくるようにしましょう。

図2 話合いのルール

さらに、ミニホワイトボードの活用により、話合いの過程を可視化したことで、話合い活動が活発化する様子が見られた(図4)。

それは「今回は、たくさんの意見が聞けたので、とてもためになる時間だった。みんなに自分の気付いていたことを全て言えたので、とても良かったです」という生徒の振り返りの記述からも、読み取ることができる。

まとめ役	司会役 <small>(ファシリテーター)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○司会役 = 話合いの進行 ○発表者役 = 班の意見を全体に発表する。
調整役	発表者役	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ役 = プレートに意見をまとめる。 ○調整役 = 仲間のサポートをする。

図3 グループ内における話合いの役割分担



図4 ホワイトボードを用いた話合い活動

(2) 手立て2「互いを認め合うグループワークの充実」

合唱練習における互いの頑張りやよさを伝え合う活動をより活発化するために、合唱のパートを基本としたグループ編成で活動を行った。そのため、その個人との関わりに応じた肯定的な言葉掛けができていた(表1)。以下に、生徒の実際の言葉を掲載する。

表1 互いの頑張りやよさを伝え合う活動において、生徒が伝え合った言葉

	友達からもらった言葉	感想・気が付いたこと
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> ・キレイな声で歌っていて、すごいと思います。 ・大きくはっきりとした声で、キレイに歌っていて、頑張っていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりの人が自分の良いところを書いてくれていてうれしく思いました。ほめてもらったところは、今後もっとのばしていけるようにしようと思いました。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスやパートをまとめていて、すごいと思います。 ・みんなのことをまとめながら指揮ができていたので、これからもみんなのリーダーとしてがんばってね！期待しています！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮がちゃんとできていると言われて、自分ではまだまだだと思っていたけど、みんなはそう思っていてくれて、うれしかった。

また、この合唱練習における互いの頑張りやよさを伝え合う活動が、生徒の自己有用感を高めることにつながったことが、「自分の頑張りや良い点に気付くことができたか」という授業の振り返りの問いに対し、49%の生徒が「そう思う」、51%の生徒が「やや思う」と答え、合計すると生徒全員が肯定的に回答したことに表れている。

ICTを活用して、生徒の合唱練習の様子を歌詞付きで提示するとともに、活動の内容を資料として図5のように提示したこと

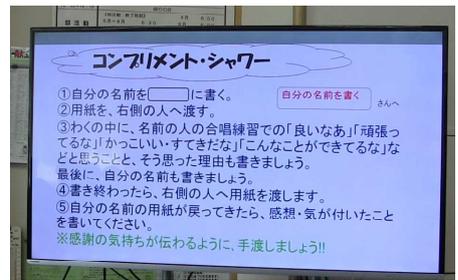


図5 パワーポイントを用いた資料提示

により、生徒自身が自分たちの取り組むべき活動を的確に理解できていた。その結果、グループワークを円滑に進めるとともに、話し合い活動において、積極的に意見を伝え合う姿が見られた(図6)。

最後の合唱を歌う場面では、自分たちで設定した行動目標を意識して歌うことができた(図7-a, b)。また授業後も、すぐに行動に変化が見られ、翌朝の学級では、部活動の朝練習を終えた後、集まった生徒から歌の練習をする様子が見られ、その後の1週間も合唱に主体的に取り組む様子があった。



図6 話し合い活動を進める様子



図7-a 行動目標を考える様子

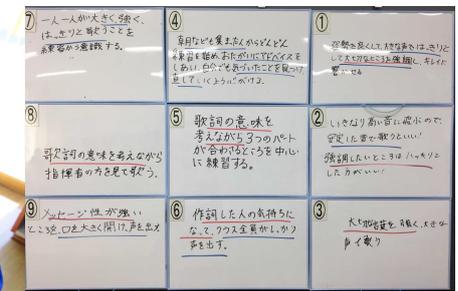


図7-b 話し合いで設定した各パートごとの行動目標

5 考察

自己有用感に関するアンケート調査において、「私は、クラスの人から信頼されている」という質問に「あてはまる」と回答した生徒が21%から33%に増加した。さらに、授業実践後の生徒の感想にも、「まわりの人が自分の良いところを書いてくれて、うれしく思いました。ほめてもらえたところは、今後、もっとのびしていけるようにしていこうと思いました」など、前向きな気持ちにつながる言葉が複数見られた。

また1学期は、学級委員を中心にして進化した学級会運営を、2学期以降は、輪番制の司会団に任せることにした。生徒が主体的に学級会を運営したことで、授業を通して、生徒一人一人に活躍の場を与えることができた。さらに、生徒自らが決めた行動目標を意識して、上級生との合同練習に主体的に取り組む姿も見られた(図8)。授業実践後の振り返りにあった「合唱コンクールに向けて、団結して最も良い声で歌いたいです」「最優秀賞を目指して、団結して日々練習を重ねたいです」などを一例とする言葉からも、生徒の互いの絆が深まったことが確認できた。合唱コンクール後の振り返りでも、「クラスであまり話さない人とも話せて、絆が深まったと思います」など、互いの絆を深めることができたという言葉が複数見られた。

これらのことから、体育大会や合唱コンクールなどの学校行事や節目の時期に、互いの頑張りやよさを伝え合う活動を実施したことは、自己有用感や自己肯定感を高める上で有効な手立てであったと考えられる。

今後、生徒の自己有用感をさらに高めるとともに、互いの絆を深めるために、学年の中で連携し、共通の指導実践を行っていききたい。また、生徒の互いの絆を深めるために、継続的・計画的に互いを認め合う活動に取り組む必要がある。



図8 合唱の練習に取り組む生徒の様子

6 資料

(1)あなたが、普段思っていることを教えてください。
(成績などの評価には全く関係ありません。
安心して答えて下さい。)

質問項目	
7. 私は、クラスの人役に立っている。	5・4・3・2・1
8. 私は、クラスの人を信頼している。	5・4・3・2・1
9. 私は、クラスの人といくと安心できる。	5・4・3・2・1
10.私は、クラスの人に支えられている。	5・4・3・2・1
11.私は、クラスの重要な一員だと思う。	5・4・3・2・1
12.私は、クラスの人から信頼されている。	5・4・3・2・1

図9 ふだん思っていることアンケート (自己有用感に関する調査・一部抜粋)

★コンプリメント・シャワー

① ①の歌詞をもとに、自分たちの合唱練習を振り返って、お互いの頑張っているところを伝え合いましょつ。

自分の名前を書き、この用紙を、右となりの人へ渡します。

わくの中に、名前の人の合唱練習の中での「良いなな」「頑張っているな」「こんなことができるな」などと思うこと、そう思った理由を書いてください。最後に、自分の名前を書きましょう。

全員がメッセージを書き終わる、自分の名前の用紙が戻ってきたら、感想・気が付いたことを書いてください。

_____より	_____より
_____より	【感想・気が付いたこと】

図10 コンプリメント・シャワー (ワークシートから一部抜粋)

1 学期学級M.V.Pアンケート

年 組 名 前 _____

学級MVP	_____さん
推薦理由	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除や給食当番など、おしゃべりせずにまじめに取り組んでいる。 ・授業中の発言が多く、チャレンジ40などもがんばっている。 ・誰にでも優しく、困っている友達に話しかけていた。 ・学年行事や学校行事で中心となって活躍している。 など具体的に <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>

図11 学期末ごとに実施する学級MVP選出用紙 (勤務校の全学級で実施)

表2 学級で実施したソーシャルスキルトレーニングの内容とその実施時期

名称	実施時期	内容
「もらってうれしい言葉やしぐさ」	5月上旬	自分がもらったとき、うれしい言葉やしぐさ、逆に嫌な気持ちにする言葉やしぐさを考えて、グループで話し合う。
「相手の話はどこで聞く？」	6月上旬	様々な聞き方を体験する中で、相手の話を聞くためには、耳だけでなく目と心で聴くことが大切なことを実感する。
「ごちゃ混ぜビンゴ」	8月下旬	友達に話し掛け、ビンゴシートに書かれた内容に当てはまる人を探し出し、できるだけ早くビンゴを作ることを競う。

話し合いの順序		話し方
1	はじめの言葉	今から第()回学級会を始めます。
2	司会グループの紹介	今日の司会グループは、()グループです。 司会の()です。副司会の()です。黒板書記の()と()です。記録の()です。よろしくお願ひします。
3	議題と提案理由の確認	今日の議題は、「 _____ 」です。提案理由を()さんに伝えてもらいます。()さん、お願ひします。
4	話し合いのめあての確認	今日の話し合いのめあては、「 _____ 」です。
5	話し合いの柱の確認	今日、話し合うことは、()つ)あります。 柱1「 _____ 」以下省略.....

図12 普段の学級会で使用している話し合いマニュアル (一部抜粋)